



平成22年度入学生 おめでとう

平成22年度の入学式が4月1日、本校体育館で行われ新入生319人（情報文化学科136人、情報システム学科181人、編入学生2人）が新たな夢を描きながら、みずき野キャンパスでの学生生活をスタートさせました。

青春の情熱を傾注し 限りなく学べ、楽しめ

緊張の面持ちの新入生に、平山征夫学長は式辞で「限りなく学んで自己の専門を見出し、てほしい。青春の情熱を傾注し夢に向かって努力し、豊かで楽しい学生生活を謳歌してください」と激励しました。

引き続き関根秀樹新理事長が「意識を持って学び、人間性豊かで温かい心を持った社会人に成長することを期待しています」と祝辞を贈りました。

在学生を代表して情報文化学科3年生の五十嵐聡さんは「勇気を出して一歩を踏み出そう。多くの出会いの輪を広げ新しい自分を発見しよう。一緒に、なつて有意義な楽しい学園生活を送りましょう」と歓迎の言葉を述べました。

これに対し、新入生を代表して情報システム学科の武田学さんが「一つ一つの情報をしっかりと判断できる基礎知識、分析力や応用力を身につけるため何事も真剣に学び続け、自己を成長させたいと思います」と力強く決意と抱負を披露しました。

式典では派遣留学・海外夏期セミナー提携校の極東国立総合大学（ロシア）、北京師範大学（中国）、慶熙大学（韓国）、ノースウエスト・ミズーリ州立大学（アメリカ）、アルバート州立大学（カナダ）の各大学からの祝福ビデオメッセージも映し出され、新入生との交流を呼びかけました。

春雨も上がった式典後には、新入生たちは多くのサークルの歓迎と勧誘の輪の中を通りながら校舎に入り、期待に胸を膨らませながら早速ガイダンスに臨みました。



CONTENTS

2・3面

入学式特集

学長式辞 理事長祝辞
新入生代表・私の抱負
在学生代表・歓迎の言葉

4・5面

大きな夢を抱いて（新入生の決意）
地域の活性化に貢献（在学生の活躍）
新任学部長、両学科長あいさつ
新任教員紹介3人

6・7面

派遣留学・夏期セミナー帰国報告会

平成21年度主な就職先一覧

オープンキャンパス案内

48人に資格取得奨学金を授与

「家族の肖像」をテーマに公開講座

9月から全キャンパス全面禁煙

8面

最終講義と3退任教員あいさつ

事務局異動（退職） 湧源

9面～12面

平成21年度卒業式特集

卒業生思い出ひとこと

JABEE認定13人に修了証書

特別表彰

式典・祝賀会スナップ

学長式辞

新潟国際情報大学長
平山 征夫

自己管理をしつかり

夢に向かって努力を

新入生の皆さん、入学おめでとう。本学教職員はじめ関係者を代表して心よりお祝い申しあげますとともに歓迎申し上げます。

皆さんは今、入学式に臨み新たな大学生活への少しの不安はあるでしょうが、その何倍もの大きな希望に満たされていることでしょう。同席されているご父母の皆さまのお喜びもいかにばかりかと推察いたしております。

平成6年に開学しました本学は、今回で17回目の入学式を迎えたまだ若い大学ですが、諸先輩の努力で少しずつ伝統を築いてまいりました。今春もこのように澁刺とした新入生を迎え、さらなる次の一步を踏み出せますことを喜んでおります。

本年入学された皆さんは、情報文化学科136名、情報システム学科181名、および編入学生2名、合わせて319名です。本学の建学の理念であります「わが国の社会、文化についての認識と理解を基礎に、国際化、情報化の社会の中で立ち、能力があり、意欲があり、人間性豊かな人物を育成する」という目的に向かって私たちは教職員一同、皆さんが有意義な大学生活を送ることができますよう最大限の支援をしてまいりますので、皆さんも先輩たちが築いた伝統を引き継ぎ、さらにこれを発展させると同時に、それぞれが大学での勉学と人間形成という目的を達成すべく努

力してください。

入学に当たって学長として皆さんに本学での大学生活に期待すること、心がけてもらいたいことなど申し上げたいと思います。

大学は高等教育の場です。皆さんは高等教育を受ける場として本学を選ばれました。それは本学の先ほど述べた開学の理念、あるいは本学の専門分野や学科内容などに、何らかの興味を抱かれたからでしょう。私たちは皆さんのそうした本学への興味、期待に応えるべく全力で教育に努めます。しかし学ぶのは皆さんです。まずお願いしたいのは勉強に全力で取り組んで欲しいということです。大学は学ぶところであり、学ぼうと思えば限りなく学ぶ材料は転がっています。それを見つけて学んで自分の知識にするのは皆さん次第です。

しかし、大学では、知識を身に付けるだけではなく十分です。大学では幅広い知識、教養ともいうべきものを身に付けると同時に、自己の専門を見出しその分野の深い知識をも合わせ身に付ける場です。一般教養と専門、この両面の知識をバランスよく学んでください。そして得た知識をもとに考える力を身に付けてください。卒業後社会人として「自立した人間」になるためには、大学で考える力を養ってください。考える力は「学び、考え、また学ぶ、そしてまた考える」、この繰り返しから身に付きます。大学の4年間、どうか学び、考えてください。

大学生になるとそれまでに比べ格段に自由になります。授業に出るか、クラブ活動に参加するか、アルバイトするかなど、毎日の生活は自分で決めることになります。ややもすると安きに流れます。どうか学生生活を計画を立て規律をもって自己管理してください。自由さが生活の規律を失わせてしまいかねません。大学生生活は自己責任であること、自由が墮落をもたらす危険があることをしっかりと自覚してください。授業やゼミ、演習などに積極的に参加するとともに、クラブ活動にも青春の情熱を傾注してください。友人が増え

たり、勉強以外の目的ができたり、きつと大学生生活が豊かで楽しいものになるでしょう。そして幅広い活動が人間形成に大いに役立つでしょう。

残念ながら毎年せっかく本学に入学したのに「進路を見直したい」といった理由で休学・退学するケースが生じています。もちろん、近年は経済的事情でやむなく退学される方もいますが、極めて残念なことです。せっかく自己を磨くチャンスを手にながら、「自分のやりたいことが見出せない」「勉強意欲を失った」などといった理由で退学していきます。そうした思いを抱いた場合は、結論を出す前に私や担当の先生にぜひ相談してください。多くの場合、自由ゆえに自分のすべきことが定められず、大学生活に対応しきれず、勉強する習慣が身に付かず、授業に次第に出席しなくなり、興味をなくしてゆくケースが多いようです。今日同席されておられる父母の方々にもお願いいたします。大学としましては、皆さまと緊密な連絡を取り、こうした事態が極力発生しないようにしてゆきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

私としては、一人でもこうした途中退学する学生を出さないようにしたいと強く願っているからです。大学に入学後同じような悩み、問題意識を持ったけれど、退学せず何とか在学し続けた人が、中年になって振り返って「あの時退学しなくて本当に良かった。あまり勉強はしなかったけれど、大学生生活を全うしたことが自分の中で何らかの力になっている」と話しているケースをいくつも見てきたからです。

先般卒業していった卒業生は、厳しい雇用情勢

のなかで未就職のままという人もかつてなく多くいました。残念なことです。大学としましては、こうした厳しい雇用情勢は続くと判断して就職体制を強化してゆきます。同時に皆さんには、大学で学びながら自分を将来生かす道を早く見出し、職業意識も持つてほしいと思います。

一昨年のリーマン問題をきっかけにしたバブル経済の崩壊は、利益優先の市場主義社会の問題を表面化させましたが、欲望を追い求める人間の心は簡単には変わらないでしょう。その意味では皆さんのこれからの人生は、競争型の必ずしも生きやすい時代ではないかもしれません。そうした時代を生き抜くために学び、考える力を身に付けることが大切になっています。同時にそうした時代であるからこそ、余計皆さんには現実を見据えらるると同時に若者らしい「夢」を持って、それに向かって努力する人生を送ってほしいのです。その出発をこの大学生活のスタートから始めましょう。「夢」は人の心を豊かにしてくれます。

何よりそれを追いかける時、人は元気で優しい気持になります。「夢」は皆さんに豊かな人間性を育んでくれるでしょう。

弥彦を望む越後平野の真ただ中にあるこのキャンパスは、皆さんの「夢」を実現するスタートの場です。自然に抱かれて、自然に生かされてもらっていることを感じながら、友人と楽しく、有意義な大学生生活をスタートしてください。

皆さんが、勉学にいそしみ学生生活を謳歌しながら成長される姿を見ることを、何よりの楽しみとし期待して、皆さんへの歓迎の言葉といたします。

祝辞

学校法人 新潟平成学院理事長
関根 秀樹

意識を持つて学び

人間性豊かな社会人に

新入生の皆さん、入学誠におめでとうござい

ます。元氣澁刺とした前途有為な新しい諸君319名をお迎えし、本日入学式が行われますことを心から嬉しく存じます。これは、多年にわたる皆さんの努力の賜であり敬意を表したいと思

います。新入生はもちろんのこと、また、皆さんの背後

にあつて、その成長を楽しみにしてこられたご臨席のご父母の皆さまに、新潟国際情報大学の設置母体であります、学校法人新潟平成学院の役員をはじめ、全教職員を代表して心からのお祝いを申し上げます。

実は、こう申す私も、本日来賓としてご臨席いただいております武藤輝一前理事長を引き継ぎ、4月1日より新しく理事長に就任したばかりであります。

私立大学によって立つところは、その建学の精神と教育理念であります。本学は、新潟市出身の元衆議院議員小沢辰男氏が代表者となり、新潟市をはじめ新潟県、近隣市町村、民間企業のご支援のもと、21世紀の「国際化、情報化」社会に対応し、国際的な視野を持ち、グローバルな情報を体系的に処理する能力を備えた人材を、この新潟の地で育成し、地域社会の発展に役立つと同時に地域文化の創造に寄与、そして人類の福祉の増進に貢献することを目的として平成6年に開学いたしました。

創設17年目を迎えた今日、私立大学を取り巻く環境は、少子化という大変厳しい状況下にありますが「優れた、質の高い教育」を目指し、「地域社会の知的中核として、社会の活性化に貢献する」責務を負っていると考えています。学校法人としてその責任の重大さを認識し、健全なる経営に最大限努めてまいります。

今の時代、価値観が多様化し、技術は日進月歩し、情報はあふれ、そのうえ経済不況、雇用不安等々、いったい先がどうなるかわからない視界ゼ口の時代に遭遇しています。そのときに、皆さんにぜひとも望むことは、「意識をもって学ぶ」ということです。4年後には卒業して社会に出て、働くこととなります。自分が関心を持てる分野の仕事に就くのがいちばん良く、また達成感があるはずです。そのためには「自分は将来何になりたいか、どういう仕事に適しているか」を、入学時から十分考えておくべきです。

もちろん仕事は、生活の糧を得る手段ですが、一方で、仕事をした、何かを成し遂げたという満取り、政治経済はもとより、日常生活の中にも定着してきています。既にパソコンは当たり前、無くては生活できないくらいになるうとしていきます。

しかし、その情報量は膨大であり、社会、企業にとつては、情報システムをいかに効果的、効率的に活用していくかが重要になっています。これからこの社会の中核を担う分野に進もうという私たちに必要なものは、一つ一つの情報をしっかりと判断するための社会的な基礎知識、そして情報処理技術の修得、分析力や応用力を身に付けることだと思っています。

いよいよ大学での生活が始まるという今日、期待と不安が入り混じっていますが、これからの4年間を大切に、授業はもちろんのこと、人間関係を大切に、何事にも積極的に取り組み、社会の一員としての知識を身に付け、自己を成長させたいと思います。

最後に、経験豊かな先生方からご指導をいただき、常に真剣に学び続けることをお誓いし、入学の抱負とさせていただきます。

私の抱負



新入生代表 情報システム学科
武田 学

何事にも真剣に取り組み 自己を成長させたい

本日は、私たち新入生のために、このような素晴らしい入学式を挙げていただき、そして、激励の言葉をいただきありがとうございます。

現在、私たちを取り巻く情報通信の分野は目覚ましい発展を続けています。情報化社会はますますグローバル化が進み、地域や国を越えた情報のやり

足感や、社会のために役立ったという達成感が非常に重要であります。その意味で、学生生活の中で「自ら考え、創造する力、物事の本質を見極める力」をいかに付けることができるかが大切になるわけであり、自分が考え、行動するということとは「責任」を伴います。その結果については自ら責任を負わなければなりません。失敗を社会のせいにして、他人のせいにするということによって自らの責任から逃れることはできないのであります。このことは、他の人を思いやる優しい心を持ち、他者を尊重するということになり、社会のルールを守るということになります。

皆さんが学生生活の中で良き師と出会い、先生と長い人生の交流を持ち、将来を共に語り合い、歩むことのできる友人を得ることが後の人生を豊かにするものであります。この複雑な、流動的で不透明な時代であります。皆さんが充実した学生生活を送られ、人間性豊かな温かい心を持った社会人に成長されることを祈念して、お祝いの言葉といたします。

歓迎の言葉



在学生代表 情報文化学科3年
五十嵐 聡

勇気を出して一歩を 新しい自分を発見しよう

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご臨席いただきましたご父母の皆さま、本日は誠にありがとうございます。例年より多く積もった雪もようやく解け、桜のつぼみも少しずつ膨らみ始める季節となりました。

皆さんは、新しい生活を迎え、どのような想いを持っていますか？
今、世界各地では、ハイチ地震・チリ地震と

祝電

新潟県知事
新潟市長
日本私立大学協会会長
(株)リクルート代表取締役社長

泉田 裕彦
篠田 昭
大沼 淳
柏木 育

いったように、地震や大雨、大雪等の自然災害が多発し、国際貢献がますます叫ばれるようになり、私たちが学ぶ国際という分野の重要性が増してきました。本学には、世界各地の地域の特色を学ぶことによって役立ちたいと考える人もいます。また、世界的な経済悪化、日本における長期的なデフレといったように、社会情勢が厳しくなる中、一部には経済回復の兆しは見えるものの、実生活は苦しくなるばかりです。いずれにせよ、これからの日本を背負っていく私たち若者には厳しい状況が続きますが、夏に行われる参議院選挙や地方選挙を通し、政治に無関心にならず、興味・関心を持って視野を広げていくべきではないでしょうか。

高校までの生徒とは違い、皆さんは、今日から学生となります。ぜひ、有意義な学生生活を送ってください。学生とは、自ら学び、行動して学問・研究を深めていく人のことです。皆さんのその胸に秘めている気持ちは、自身の行動によって、実現の可否が左右されます。サークル活動に参加する。海外提携大学へ留学をしてみる。ボランティア活動をする。本学はその道標として、自分の行動によつては、友人、先輩、教職員の方々が手を貸してくれ、それを受けて、充実したキャンパスライフを送る先輩方はたくさんいます。受動的な姿勢では、何も得ることはできないと考える方がいいでしょう。皆さんはまだ、不安や緊張で戸惑っているかもしれません。

しかし、勇気を出して一歩を踏み出すことで、大学生活は大きく変わります。その小さな一歩は、将来的に大きな成果となり、すべては自分自身の糧になっていくことでしょう。社会人への一歩を大学生活の中で見出すことで、世の中における自分を発見できると思います。

そのために、大学4年間の目標をしっかりと持

語学もサークルも… 人間とし成長したい



情報システム学科1年 赤松 剛

この大学に入學して、私はやり遂げた目標がいくつかあります。

まずは、勉強と部活動サークルの両立をしていくことです。高校時代には、部活動に集中し過ぎて、勉強の方がおろそかになり、両立ができませんでした。これからの大学生活ではまず、今までおろそかになっていた勉強の方にも力を入れるとともに、部活やサークル活動にも積極的に参加し、より充実した学生生活にしたいと思っています。

さらに、今まで学ぶことのなかった新しい分野を学びたいということです。それはこの大学で、高校時代には学ぶことのなかった情報システムに関する知識を深め、さらに英語の能力も高めていくことです。

ゴルフも国際感覚も… 可能性を広げたい



情報文化学科1年 清野 未琴

私は大学生になるに当たり幾つかの楽しみがあります。

私は高校でゴルフ部に所属していました。そして大学でもゴルフを続けたいと思っています。

当大学には体育大学なみの充実したスポーツ施設があるため、一生懸命にゴルフに取り組むことのできる素晴らしい環境があります。基礎体力も強化し試合で良い戦績が多く残せるように日々努力し練習に励みたいと思います。

また、それと同時に勉強にも意欲的に取り組み、この情報文化学科で国際感覚を身に付け、自分の可能性を広げるとともに夢の実現に近づきたいです。そして、たくさんの友人をつくり充実したすばらしい4年間にしたいです。

大きな夢を抱いて

新入生の決意

つことが大切です。大学は、基本的に自由な場所です。自由という言葉は、一見すごく自分にとって有利かのように感じます。しかし、目標を持たない人は自分の可能な行動がどこからどこまでなのか分からなくなってしまう、選択肢の幅が狭くなってしまうがちです。目標を有する人は、自由になったとき目標に向かうために選択肢をつくって自ら行動します。自らが積極的に行動すること、すなわち、人との出会いが選択肢を増やすことにつながると、私は考えます。例えば、サークルに入って、友人をつくったり、先輩と知り会ったり、教職員の方々とかわりを持ち、人と人との輪を広げていくことによって、さまざまな人からの影響を受け、新しい自分が見つかるかもしれません。その可能性をつくり出すのは自分次第です。4年間という長いようで短い時間を実感したものにすることは、目標を持つて、いかにその与えられた自由を自分でどうコントロールするかが重要だと思っています。そのとき皆さんを支え、助けてくれるのは友人であり、師であると思います。

これから皆さんには、たくさんの出会いが待ち受けています。「我を非として当う者は吾が師なり」という諺にもあるとおり、自分の欠点を注意してくれる人は誰でも自分を導いてくれる先生だということです。今までに会ったことのない人との出会いによって、切磋琢磨できる仲間をたくさんつくり、明るい大学生活になることを心から願っております。最後になりましたが、皆さんの本学へのご入學を心から祝福し、これから皆さんと大学生活をともに送ることを楽しみにしています。

学生が古町の活性化に二役

まちなか再生井戸端会議に参加

市民の声を聞く 重要さを学ぶ

情報文化学科4年 茅原 嵩生

新潟市の市民活動支援センター開設5周年を記念した「まちなかフェスティバル ROSA」が2月6日、西堀ローサで開催され、イベントの一つ「市民によるまちなか再生井戸端会議」に情報文化学科の茅原嵩生さんと斎藤雄介さん、情報システム学科の片岡憲一さんと渡辺貴人さんが参加しました。

井戸端会議の運営スタッフとして参加し、一番強く感じたのは「市民の声を聞けない」ということだ。

4学生は参加者の親睦を深めるゲームで、街と市民のかかわりの「気付き」で会議を有意義に進行させました。また西堀ローサを訪れる市民の声をグループワークで集め、さまざまな思いを会議で紹介しました。

会議の横で傍聴者、通行人の方の参加型のグループワークを行った。アイズブレイクは、自己紹介ゲームを通してうまく皆の緊張をほぐすことができた。ご意見番号も私たちスタッフの声掛けで、たくさん書いていただいた。グループワークでは声をかけてもなかなか参加してもらえず苦労した。しかし、本当に古町を良くしようと考えている方々と、真剣かつ楽しく議論できた。

地域に貢献 積極的に課外活動

同好会nuispが開発「砂金」アプリ

デジコングランプリで入選

にいがたデジコングランプリ2009が12月17日行われ、iPhoneアプリケーション部門に参加した本学のコンピュータプログラム制作同好会nuispのメンバーが開発した「砂金」アプリケーションが見事入選しました。

同グランプリは新潟のデジタルコンテンツ制作者の人材育成、地域の活性化、地域文化への貢献を目的に2001年から開催されています。

参加したメンバーは情報システム学科小柳昭平さん、佐藤勇太さん、石山たまみさん、星希美さん、伊佐瞳さん、山倉有馬さんの6人。作成した体験型アプリケーションは、iPhone自体を揺らして砂の中から砂金を見つけ出し、指でそっと拾い上げるようにできています。佐渡の特徴を表し、さらに加速度センサー、タッチセンサーといった機能を用いて開発されています。

さらに改善して世界の 人に使ってもらいたい

情報システム学科4年 小柳 昭平

プログラミングを主に行うサークル(nuisp)の活動の一環として、作品を応募することにしました。テーマが「新潟」ということもあり、アプリは佐渡島にある砂金採りを題材とすることになりました。

初めてのMacOSでの開発ということで戸惑う部分も多かったのですが、先生からの助言もあり、なんとか開発する段階まで進むことができました。当初は私を含め2人での開

発でしたが、開発が進むにつれ参加人数は増えていき、最終的には6名が参加するプロジェクトチームとなりました。役割分担をすることで開発速度も向上し、順調に開発することができました。

完成したアプリは入選することができましたが、さらに改善すべき点がありました。これからも開発を続けていこうと思います。最終的にはApple Storeに登録し、全世界の人に使ってもらいたいと思っています。このアプリの開発は、チームで開発することの難しさや、コミュニケーションの重要性に気が付くことができ、貴重な経験となりました。



実のところ学部長の仕事とは何かを考えるよりも前に、このような役割に就くとき、ついつい考えてしまうのは適格性ということである。くだけた表現をすれば「柄じゃないよなあ」ということだ。しかしこれは自意識の過剰さのゆえともいえない。考えてみれば、このようなときには「なんで私が？」と思うほうが一般的であって、「自分は学部長にふさわしい」と思うような者こそ自意識が肥大化しているといつていいだろう。

そのように考えると大学の学部長だけでなく、「長」がつく職に就く地球上のすべての人がなんらかの違和感を持ちながら仕事を開始するというのはとても不思議なことだ。それに加えて、そ

自らの行動もフィールドワークとして

れでも組織が動いているというのはいっそう不可解なことではある。

しかし、実はこの点について伝統的に問題にしてきたのが政治学である。その意味では、政治学の末席を汚す者として自分の学部長としての行動を政治学的基準から判断しなければならぬ。これはきつい。占い師が自分の人生を占うようなものである。

基本的に理論研究を自らに課しているつもりだったのだけれど、今年は「フィールドワークとしての学部長」という研究に邁進するしかない（当然、冗談です。本気にしないように）。少しまじめなことも書いておくと、学生が明るく勉強できるための条件を整え、また教員が教育と研究に従事しやすい環境を用意することが学部長の仕事だと思っている。それが簡単にできないことも分かっているつもりだけれど、元来、根が軽いのでなんとかすることも感じている。学生の皆さんも含めて、ご協力を乞う次第である。

新任挨拶

学び、研究しやすい環境に



小山田 紀子

現代世界は「ヒト・モノ・カネ・情報」が国境を超える国際化時代にあります。

このような地球時代に生きる若者は、国際社会に対する幅広い教養を身に付ける必要に迫られているといえましよう。しかし、国籍や民族を超えて、異文化を背負う人間同士が理解し合うことはそう簡単



岸野 清孝

日本経済は今後も良くなる見通しがつかないのが現状です。景気が悪い中で業績の良い企業と悪い企業の格差が、平均所得が減少する中で所得の多い社員と少ない社員の格差が拡大しています。大卒の就職難が叫ばれる時代に、企業はどのような学生を望んでいるのでしょうか。

大学では授業に出席して知識を得ることが重要です。自

国際理解への扉を開こう

単な話ではありません。コミュニケーションの手段としての外国語の修得のみならず、異なる文化や社会、国家や国際関係の仕組みについて学ぶ必要があります。異文化摩擦や地域紛争の原因について考え、解決の糸口を見出す。

していくための勉強は、日本という国のことを知り、われわれが生きていく道を探る上でも重要です。このような時代の要請に対応するため、情報文化学科のカリキュラムは国際社会の理解と外国語の習得の2本の柱

主的に情報を収集し、問題を発見し、自分で解決策を考えることが要求されます。このことは勉強だけでなく部活、アルバイトなどすべてに当てはまります。問題点や壁に遭遇したときに、どのようにして解決して乗り越えることができるかが問われるのです。

人生を変える4年間を

企業もそのような能力を備えた即戦力の人材を採用しようとしています。

情報システム学科では、そのような人材を育成するために日本技術者認定機構（JABEE）の認証を受けた国際水準の教育課程を提供しています。成績が達成度評価基準を満たすと、国際水準の技術

で構成されています。そしてその中に派遣留学制度や少数教育のゼミナールがあります。本学科の提供する授業や制度を十分に活用して、学ぶことの大切さを自覚し、自ら学ぶ姿勢を身に付けてください。

大学生生活の4年間はこれからの皆さんの人生を決める大切な時間です。アルバイトは最小限にとどめ、また就職に直結する近視眼的なハウツーものの勉強だけに力を入れるのではなく、先生や学生同士の交流を通じて大いに学び、楽しく実りある大学生生活を送られることを望みます。

レベルが保証される「JABEEプログラム修了生」として認定される制度です。認定を受けると国家資格である技術士補の資格を得ることができます。

情報システムを学ぶには講義科目による基礎知識と、演習科目による情報技術の両者の習得が必要です。その上に専門知識を学び、卒業論文で学んだ知識と技術の集大成を目指します。大学4年間をなまけて暮らしたか頑張ったか暮らしたかによって、卒業後の社会に出てからの人生が変わるといっても過言ではありません。悪い言い方をすれば勝ち組になれるか負け組になるかが決まる4年間だと思ひ、真剣に学生生活を送ってください。

新任教員紹介

西山 茂

情報システム学科 教授

情報システム特論、情報産業、基礎演習、情報処理演習U1、情報システム演習、専門演習A、卒業研究

ソフトウェアメトリクス、特にファンクションポイント法およびそれを利用したプロジェクト評価の研究。ソフトウェア産業が真に「産業化」することに興味を持ち、またインターネットに長くかわかり、その利用法についても研究。

1975年 電気通信大学大学院電波通信専攻修士。工学修士。
NTT研究所で予測符号器、日本語コンパイラ、ソフトウェア開発環境、ソフトウェアメトリクス、見積法：ファンクションポイント法などの研究
99年 NTT東日本研究開発センターでWeb系通信システム、電子図書館、指紋認証システムの開発
2002年 NTTアドバンステクノロジ コアNW事業本部で各種ソフトウェア開発のPM、情報セキュリティ、ISO9000、プロジェクト品質管理
06年 新潟市政企画部IT政策監 新潟市役所の電子自治体業務に従事



上西園 武良

情報システム学科 教授

人間情報システム、人間情報工学1、人間情報工学2、演習、卒業研究

人間工学、特に人間中心設計(HCD)を旨とした機器の設計論。具体的には、ヒトの感覚特性・認知特性に適合した機器の設計手法の研究。良質な睡眠のための寝具の研究。

1974年 神戸大学理学部物理学専攻卒業
76年 大阪大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程修了
77年 アイシン精機株式会社入社
2004年 同社 主席技師
09年 博士(工学、大阪市立大学大学院)学位取得(12月)



松尾 瑞穂

情報文化学科 講師

国際協力論、社会調査、文化人類学、基礎演習、国際研究ゼミナール

文化人類学：ジェンダー医療人類学。南アジア社会におけるジェンダーと生殖(リプロダクション)実践の近代化による変容と、テクノロジーと身体のかかわりについて研究。

2007年 総合研究大学院大学博士課程単位取得退学
日本学術振興会特別研究員(国立民族学博物館)
08年 日本学術振興会特別研究員(京都大学)



留学・海外セミナー・帰国報告会開く

昨年の派遣留学（情報文化学科）と海外夏期セミナー（情報システム学科）の帰国報告会が1月20日、みずき野本校の国際交流センターで開かれました。新型コロナウイルスが流行の最中の留学でしたが、参加した45人全員がその影響をほとんど受けて帰国し、あらためて元気に報告会とパーティーに参加し同僚や教職員と一緒に貴重な体験などを語り合いました。

〈中国コース〉

貴重な体験生がそつ



情報文化学科
2年 井浦 画功

中国に行つてからの4カ月はあつという間に過ぎてしまいました。出国する前は、楽しみ、期待こそあつたもののやはり不安が大きかつたです。中国の生活に慣れることができたのか、友達ができるのか、授業はどのようにしてやるのか、など、そんな不安などお構いなしに、時間はたつた気が付くほど北京。着いてまず思ったのは日本語が無いということ、ここは日本じゃないんだなあと思われました。今回の留学が初めての海外で、一つ一つのこと

で感動していました。新型インフルエンザの影響で他の学生たちと接触し感染することを避けるため、1週間隔離されていました。その間、大学構内のスーパーで日用品を買ったり、大学の中を歩き回ったりしながら、外国で初めて生活するということが何でもかもが新鮮に思えました。

授業はとても楽しいものでした。授業は、中国語、英語で言えばスピーキング、リスニング、ライティングの他に、日中関係や、中華民族、絵画、書道、太極拳などがありました。太極拳は一つ一つの動きに意味があるのですが、先生の言うてあることがいまいち聞き取れず、あまり理解はできませんでした。とありますが、身体だけではなく精神面をも鍛えられるそうです。

中国語の授業は外国人たちと一緒に、同じクラスには、日本人以外にアメリカ、イギリス、ベルギー、韓国、北朝鮮、タイ、インドネシアの人たちがいました。年齢もバラバラ、中には大学の先生方と同じ年

「不安…感動…苦悶…そして自信に」

カナダコース

新たな課題発見した



情報システム学科
2年 田中 琴奈

私は、カナダ留学をしたことが、英語だけでなく、多くのものを得る機会になったと思います。授業を受けたら、いろいろな場所に行ったり、またホームステイの経験からたくさん自分のことを学びまし

をこなしていききました。授業のスタイルは、先生が教科書の内容から出す質問に対して、私たち生徒が自発的に挙手して答えていくのが主でした。私は最初の2カ月間はクラスメートの中国人やサウジアラビア人と比較すると、発言をする回数は圧倒的に少なかったです。こんな自分を目的の当りた

のと同時に、日本の英語教育の問題点というものが少しですが見えた気がしました。その問題点とは、一概には言えませんが、日本人は読み書きが比較的できたと、でも、いざ英語を話すとなると人が変わってしまつたように黙込んでしまつてしまうということです。外国人とコミュニケーションを図る際に必要なスキルというものはスピーキング能力なんだということを痛感した瞬間でもありました。

今回の留学は、自分の日本に対する知識の無さ、世界中にはさまざまな夢や宗教観を持った人々が存在し、またその中に私自身も存在しているのだという意識を持たせてくれました。

とができました。本学先輩の滝沢亮太さん、大野美南子さん、そして休学中の磯部公美さん、渡辺岳さん。先輩方には普段の生活、学習についてはもちろん、多くのことでアドバイスを頂きました。私は世界観、価値観が変わりいろいろなことに興味を持てるようになりました。また

た。カナダで出会った人々たちをはじめ、一緒に留学をしたメンバーなどと新たな人間関係も築きました。特にホームステイは、とてもホストファミリーに恵まれて、私にとって一番のかけがえのない思い出です。留学では全体を通して素晴らしい経験をさせてもらったと思うし、本当に楽しくてあつという間の5週間でした。ですから、それを支えてくれた家族や先生方にも、とても感謝しています。

しかし、その短い期間で劇的に英語力が上がったかというところ、そうではないと私は思いました。それではない英語を話す中で新たな

をこなしていききました。授業のスタイルは、先生が教科書の内容から出す質問に対して、私たち生徒が自発的に挙手して答えていくのが主でした。私は最初の2カ月間はクラスメートの中国人やサウジアラビア人と比較すると、発言をする回数は圧倒的に少なかったです。こんな自分を目的の当りた

のと同時に、日本の英語教育の問題点というものが少しですが見えた気がしました。その問題点とは、一概には言えませんが、日本人は読み書きが比較的できたと、でも、いざ英語を話すとなると人が変わってしまつたように黙込んでしまつてしまうということです。外国人とコミュニケーションを図る際に必要なスキルというものはスピーキング能力なんだということを痛感した瞬間でもありました。

今回の留学は、自分の日本に対する知識の無さ、世界中にはさまざまな夢や宗教観を持った人々が存在し、またその中に私自身も存在しているのだという意識を持たせてくれました。

課題が見つかったような気がします。だから私は、「これから」が大事なのではないかと思っています。そして、今後その留学経験を生かし、さらなる努力が必要だと感じました。そうすることで、留学での素晴らしい経験が、さらに有意義なものになっていくと思います。

留学をされた皆さん、これからまた、学校生活の中で日々頑張ってくださいよう！

〈カナダコース〉

広い世界の出会い



情報文化学科
2年 進藤 愛

この留学で、私は広い世界を見ることができました。ロシア人だけでなく、韓国人や中国人、アメリカ人といったさまざまな人々に出会うことができて、とても楽しかったです。

ロシア人は見た目は怖そうに見えますが、話してみるととても親切で、ユニークでした。私たちが住んでいた寮には、デジュールナヤというお話をしてくれる女性が各階にいました。いつもは厳しく接する人ですが、時折、見せてくれる優しさもあり、そういう風に人と接することができて、良い経験ができたと思います。

毎春恒例の「国際交流フェア」が4月19日から28日まで、みずき野本校キャンパスで、その後は会場を新潟中央キャンパスに移し5月21日まで開催され、思い出の品々や写真、パネルなどの展示を行います。

最後に、先生方や留学に行った仲間感謝をしたいと思います。そして今も延長をしてくれている後藤孝仁くん、本間実花さん、笹川絵美さんの3人が無事に帰ってくるのを待つばかりです。

〈韓国コース〉

多国籍の学生と交流



情報文化学科
2年 音田 奏

私は4カ月韓国に留学していましたが、留学先では現地の方だけでなく同じように留学している韓国と日本以外の国の学生とも多く交流することができました。授業では日本人は本学の留学メンバー4人だけでした。

私たちのクラスはさまざまな国の人が交ざったクラスで、クラスメートはオランダ、フランス、中国、ベルギー、アメリカ、タイ、ロシア、台湾、サウジアラビアなどの学生たちでした。行く前は不安もありましたが、これらの学生たちと楽しく過ごせたことを、今ではうれしく思います。彼らとは日常生活での単純な会話しかしていませんでしたが、それだけでも普段日本では体験できないことなので、彼らと過ごした4ヶ月間はとても貴重な経験だったと思います。

毎春恒例の「国際交流フェア」が4月19日から28日まで、みずき野本校キャンパスで、その後は会場を新潟中央キャンパスに移し5月21日まで開催され、思い出の品々や写真、パネルなどの展示を行います。

4/19~4/28(本校)
~5/21(新潟中央キャンパス)
国際交流フェア開催



毎春恒例の「国際交流フェア」が4月19日から28日まで、みずき野本校キャンパスで、その後は会場を新潟中央キャンパスに移し5月21日まで開催され、思い出の品々や写真、パネルなどの展示を行います。

本校では23日までの期間に学生ホールで、留学先の国別（ロシア、中国、韓国、アメリカ、カナ

厳しさ続く就職戦線



(写真は熱気に包まれた会場スナップ)

厳しい就職情勢が続いています。が、学内を会場にした恒例の合同企業説明会が2月3、4の両日、本校体育館で開かれました。県内外から162社の人事担当者に参加していただき、例年にも増して熱気ある雰囲気となりました。

参加した学生たちは、担当者の説明を聞き、メモを取ったり積極的に質問したり、真剣な表情でできる限り多くの企業のブースを回っていました。各企業とも来春の採用計画はまだまだ控えめな状況であり、厳しい就活が予測されますが、企業側も不安感を与えないようにと親切な対応に努め、学生たちの緊張感が和らぐ場面も見られました。

来春向け合同企業説明会 県内外から162社が参加

平成21年度卒業生 主な就職先一覧

アークランドサカモト(株)	(株)大谷商会	JA新潟中央会
アースサポート(株)	小形商工(株)	JAIにいかた南蒲
豆(株)	カネ美食品(株)	陸上自衛隊
(株)アクセスビギン	(株)川内自動車	航空自衛隊
(株)アクティオ	(株)きむら食品	(株)ジェイマックスソフト
(株)アサヒ	共栄セキュリティサービス(株)	システム・アナライズ(株)
(株)アスティア	(株)キョードー北陸	システムリサーチ(株)
(株)安中製作所	クシヤ(株)	施設工業(株)
池伝(株)	グローバルホーム(株)	新発田信用金庫
イワツキ(株)	(株)合同青果	芝通アドバンス(株)
ウィムスタジアム(株)	近藤興助工業(株)	昭和電機産業(株)
(株)ウオロク	(有)坂田洋紙店	シリウスグループ
(株)ウメザワドライ	佐渡汽船観光(株)	(株)真友社
越後交通(株)	(株)サンウッドビーバー	(株)スズキ自販新潟
越後プロパン(株)	(株)シアンス	(株)スポーツ
(株)エヌシー・エス	(株)ジェイアール新潟ビジネス	(株)スミックス長岡硝子
(株)NTC	JA越後中央	(株)星光堂薬局
(株)エム・アイ・ディジャパン	JA越後ながおか	(株)総研システムズ
遠藤工業(株)	JAIにいかた岩船	(株)総合システムプロダクツ

(株)大光銀行	新潟総合警備保障(株)
(株)大庄	新潟中央青果(株)
(株)ダイナム	新潟日産モーター(株)
(株)大洋酸素	新潟ヤクルト販売(株)
(有)大和自動車	新潟ココハマタイヤ(株)
大和冷機工業(株)	西川運輸興業(株)
高倉商事(株)	西巻印刷(株)
(株)高助	(株)ニチケアパレス
高野ガス(株)	日産プリンス新潟販売(株)
タクトシステムズ(株)	日本郵政グループ 郵便事業(株)
(株)タチカワ	日本郵政グループ 郵便局(株)
(株)たちばな	日本生命保険相互会社
中越クリーンサービス(株)	(株)ハードオフコーポレーション
中越通運(株)	(株)ハーモニック
(株)中央製版	(株)ハヤマ
トップ工業(株)	原信ナルスホールディングスグループ
(株)富山第一銀行	東日本システム建設(株)
(株)島梅	(株)ビックカメラ
(株)新潟運輸	(株)藤井繊維
(株)新潟コボタ	富士ゼロックス新潟(株)
新潟県警察	(株)文武堂
(株)新潟県農協協賛センター	(株)北越銀行

(株)北越ケース
(株)北陸電機商会
(株)ホテル清風苑
(株)ホテル泉慶
(株)堀川
(株)マルイ
(株)マルス
(株)マルタケ
(株)マンションセンター
(株)三国
三国コカ・コーラボトリング(株)
源川医科器械(株)
明和工業(株)
森井紙器工業(株)
ユニオンフーズ(株)
(株)よねー
リコーテクノシステムズ(株)
(株)リンコーコーポレーション
(株)ワックス・エンタープライズ
ワタナベグループ
和同情報システム(株)

参加無料 「家族の肖像」をテーマに3作品 「映画のなかの市民社会」

2010年度 公開講座

1999年から続いている好評の公開講座。新潟市の映画館「シネ・ウインド」で上映される映画を題材とし連続講義を行い、市民社会のあり方について分かりやすく考えます。

講演日 6/10 時間／19:00～20:30(講師未定)
課題作品「ずっとあなたを愛してる」
上映期間／5/29(土)～6/11(金)

講演日 6/17 時間／19:00～20:30(講師未定)
課題作品「家族の四季 一愛すれど遠く離れて」
上映期間／6/12(土)～6/18(金)

講演日 7/1 時間／19:00～20:30(講師未定)
課題作品「フローズン・リバー」
上映期間／6/19(土)～7/2(金)

(講師など詳細は決定次第、
本学ホームページ、月刊シネ・ウインドでご案内させていただきます)

■講演会場／新潟国際情報大学 新潟中央キャンパス
■映画上映会場／新潟市民映画館「シネ・ウインド」

(セミナー申し込み)TEL、FAX、はがき、ホームページから
(FAX、はがきの場合は、〒、住所、氏名、年令、電話番号を明記)
新潟市中央区上大川前通 7 番町 1169 新潟国際情報大学
TEL.025-227-7111 FAX025-227-7117

(協力)新潟市民映画館「シネ・ウインド」

資格取得の奨励奨学金の授与式が1月20日、本校で行われ、21年度は48人に平山学長から奨学金が授与されました。

さまざまなスキルアップに挑戦し、大学が指定した各種資格検定試験に合格した学生には奨学金を給付しています。対象となった学生は、難度の高いI種(5万円授与)が3人、II種(社会的評価に値するもの・2万円授与)が45人で、TOEICなど語学能力検定、ファイナンシャルプランナー、情報処理関係、簿記、秘書技能検定などの資格取得者に奨学金が授与されました。

資格取得奨励奨学金

I種3人、II種45人に授与

種別	取得した資格	人数
I種	TOEIC 730点	2人
	韓国語能力試験5級	1人
II種	基本情報技術者(旧2種)	7人
	ITパスポート	15人
	中国語検定3級	4人
	日商簿記2級	7人
	TOEIC 600点	5人
	ロシア語能力検定試験3級	4人
	ハンガリー能力検定試験準2級	1人
	秘書技能検定準1級	1人
	ファイナンシャルプランナー3級	1人

金が授与されました。
取得した資格の内容は表のとおり。

本学では、大学内における禁煙化を進め禁煙講習会なども開催してきましたが、平成22年9月1日から、平成22年9月1日(水)からは、すべての敷地内(新潟中央キャンパスを含む)を全面禁煙とします。これは、本学を利用するすべての人(学生、教職員、学外利用者)の健康増進、受動喫煙(煙草の先から昇る副流煙を吸われること)による健康被害の防止、および未成年者の喫煙防止を主な目的としています。

★平成22年8月31日(火)までの間は屋外喫煙所(2カ所)のみ喫煙可能となっています。ルールを守って喫煙してください。
★道路等への煙草の吸殻の投げ捨ては地域住民の迷惑になります。必ず灰皿のある場所で喫煙するようにしてください。



9月1日から
全キャンパス内全面禁煙!

OPEN
CAMPUS
2010

高校生はじめどなたでもご参加できます!

オープンキャンパス

- 学科およびカリキュラム説明
- 入試情報説明
- 入試問題の傾向と対策
- 模擬講義
- コンピュータ実習
- 語学体験
- 個別入試相談
- 就職相談
- 海外留学相談
- 学生との懇談
- 学内見学
- 保護者向けプログラム



参加お申込み 高校の進路指導の先生、もしくは右記までお申込みください。

お問い合わせ先
新潟国際情報大学 広報係

開催日 1回目 7/18日 2回目 8/8日 3回目 10/3日

AM10:00~PM4:00

新潟国際情報大学 本校
新潟市西区みずき野3-1-1
(JR越後赤塚駅下車 徒歩7分)

※変更となる場合もありますので事前にご確認ください。



〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1
TEL025-239-3111 FAX025-239-3690

E-mail soudan@nuis.ac.jp

NUISを去るにあたって

本学の芸術教育の発展に寄与された3教員が前年度3月末で退職されました。開学前のカリキュラム編成時からかわってきた大山講師、本学で8年活躍された大竹教授のお二人は定年で、それにロシア語教育などに若い情熱で学生を指導された池田講師は他大学へ移られます。

開学前から「人間を中心に」

情報システム学科 講師 大山 毅

この3月に定年のため退職することになりました。開学当時（平成6年）から就任しましたので本学に教員として16年勤めたことになりました。開学前の平成3年にカリキュラム検討委員会が設置されたので20年近く本学にかかわってきたことになりました。

開学時は駅からの道は未舗装でした。周囲に家が1軒もなく、木も草も全く生えていなかったのです。ここは時々強い風が吹きます。晴れた日に風が吹くと大学の建物を中心とした大きな黄土色のドームができて、遠くから見るとそのドームの頂上に研究棟の屋上が見え、今ではこれという状態でした。

私も楽しい思い出になりました。私が担当

私が担当

最終講義

「人間工学・研究と実験」 「SEとして教育者として」大竹先生

定年で退職された大山先生と大竹先生の最終講義が3月6日、本校みずき野キャンパスの大講義室で開催されました。

ゼミを修得した卒業生や在校生と教職員など大勢が階段教室の席を埋め、講義に先立ちまず平山学長が、両先生の経歴と本学の教育・研究や委員会での活躍などを紹介しました。

大山先生は「人間工学・研究と実験」と題して、慶応大学での研究教育、本学立ち上げにかかわってきた経緯、さらに機器の製作や研究について講演されました。



最終講義を終えて
大山先生（左）と大竹先生

という考え方を通してきました。これはソフトを設計するときでもハードを設計するときでも同じです。実際に業務を遂行するとき、人間を中心に、ということを出していただけたらとてもうれしく思います。

マクロの視点を忘れずに

情報システム学科 教授 大竹 康夫

素晴らしい3年半に感謝

情報システム学科 教授 大竹 康夫



3年半という短い期間で国情を去らねばならないことを、申し訳なく思っています。

それまで常勤で働いたことがなかった私は、国情の皆さんから本当に多くのことを教えていただきました。全員のお名前を挙げるわけにはいきませんが、小澤治子先生とブラッソル先生には、あえて

大竹先生は「SEとして教育者として」と題し、新潟との縁、NECでのシステム研究、さらに本学での8年間におよぶ教育について講演されました。

講演の後、平山学長があらためて長年にわたった本学への貢献に感謝の言葉を送り、卒業生と在学生や教職員から記念品と花束が贈られました。

この最終講義の様子はインターネットを通じて国内の卒業生や海外在住の教員らに配信されました。

湧源

編集後記に代えて

広報委員長 澤口 晋一

卒業生の皆さんには、本学での4年間で身に付けた力を発揮してこの厳しい時代を乗り越えてくれることを、新入生の皆さんにはこの4年間大いに勉学にクラブ活動に励み、充実した4年間となることを期待します。

さて、この3月をもって私の委員長としての任期も終了となる。任期2年間で常に考えてきたのは、志願者増につながる広報展開ということであった。そのため、活動内容は高

と、志願者の動向もさることながら、それ以上に気になるのは4年生の就職内定率の低さである。景気が一気に持ち直すことはないであろうから、来年度の就職状況も今年度と変わらず厳しいものになることは容易に想像できる。オープンキャンパスでの保護者アンケートでは、大学を選ぶ際に最も重視するのは就職状況だとする結果が出ている。

本学では、これまで就職関連対策に大きな努力を払ってきたことは自他ともに認めるところではある。しかし、今年の就職状況を見ると、今の社会状況はその努力をも超えてしまったところに来てしまったと考えざるを得ない。

問われるのは厳しい時にこそ地力を発揮できる大学かどうかであり、そこが評価の分かれ目になることは自明である。アンケート結果を重く受け止め、さらに大学一体となった指導体制づくりが急務となっているのではあるまいか。

異動（退職）

次の方々が3月31日をもって退職されました。

長年にわたり本学の発展にご尽力いただきました。あらためて感謝申し上げます。

▽学校法人新潟平成学院

理事長・武藤輝一

▽新潟国際情報大学

事務局長・田村孝平

学務課学生係長・小川修司

すべて宝、生き方が変わった

情報文化学科 川瀬 歩美

この大学で過ごした4年間、私にとってあまりに濃く、これまでの人生で最も充実した時間でした。たくさんの人と出会い、たくさんを経験しましたが、その一つ一つ、すべてが私の宝であり、私の生き方を変えました。

人生で初めて体育会系の部活に入りました。諦めずに努力を続ければ結果はついてくるということを学びました。

私にとつての大学生活は、発見の連続でした。新しい環境で、自らの意思で遊び、学び、そしてたくさんの苦労を経験しました。

中でも中国留学は大きな転機となりました。見るもの触れるものすべてが新しく、毎日が驚きの連続で、同時に自分の視野の狭さを感じた毎日でした。そして、どんな小さな出来事でも、それを楽しみ、そこから何かを感じるようになった。そんな風になれたのは、さまざまな人々との出会いと支えがあったからです。

日本に帰ってからは、少し淡々と過ごしがちになっていた毎日が、留学を経験したことによって、どんな出来事からでも「何かを学び取れるように」という考え方に変わりました。そう考えると、ありふれた毎日を大切にすることが、何事にも積極的に取り組むようになっていきました。これから社会に出るにあたって、大学生活の経験は一生の財産となりました。社会に出て、新しい環境に飛び込むことは不安ですが、大学生活で得た財産をしっかりと生かせる人間に成長します。

アルバイトでは、自分とは人と接することが好きなんだ！というのに気がきました。相手を思いやること、お金を稼ぐということ、仕事とは何か、たくさん考えさせられました。

また、大学での講義は、その90分に込められた知識がすさまじいと感じ、一つの講義から話は無限に広がり、いつも「もっと知りたい」と学問の面白さを気付かせてくれました。

私の大学生活の中でもっとも密度の濃い時間の一つが、ロシアのウラジオストクへの留学です。本学に入学する前から「私はロシアに行く！」と言うほど、行きたいと思っていた。そのため、学習とアルバイトに力を入れてきました。そしてロシアでの生活は、書ききれないほどたくさんの思い出になっています。

帰国後は、新潟に来たロシア人の観光案内をしたり、日露学生会議に参加したり、日露の子どもの交流の通訳をしたりしました。またロシア人の友人とは現在もEメールのやりとりをしています。

ロシア留学はたった4カ月でした。しかし1年生のときは、それを目標にして努力する原動力になりました。また、3・4年生のときは、その経験を生かして日露の草の根の交流に積極的に参加できるようにしました。このようにロシア留学は4年間の学生生活に深く根ざしていました。卒業後もロシア語の学習を継続し、日露の草の根の交流にかかわっていきたいと思います。

引き続き日露の草の根交流

情報文化学科 大野 結花

た。3、4年時は国際交流インストラクター活動に熱中。チームで議論を重ね時間をかけて一つのものをつくり上げ、それを現場で披露した後の達成感は、今まで味わったことのない大きな感動でした。

また、大学での講義は、その90分に込められた知識がすさまじいと感じ、一つの講義から話は無限に広がり、いつも「もっと知りたい」と学問の面白さを気付かせてくれました。

私の大学生活の中でもっとも密度の濃い時間の一つが、ロシアのウラジオストクへの留学です。本学に入学する前から「私はロシアに行く！」と言うほど、行きたいと思っていた。そのため、学習とアルバイトに力を入れてきました。そしてロシアでの生活は、書ききれないほどたくさんの思い出になっています。

帰国後は、新潟に来たロシア人の観光案内をしたり、日露学生会議に参加したり、日露の子どもの交流の通訳をしたりしました。またロシア人の友人とは現在もEメールのやりとりをしています。

ロシア留学はたった4カ月でした。しかし1年生のときは、それを目標にして努力する原動力になりました。また、3・4年生のときは、その経験を生かして日露の草の根の交流に積極的に参加できるようにしました。このようにロシア留学は4年間の学生生活に深く根ざしていました。卒業後もロシア語の学習を継続し、日露の草の根の交流にかかわっていきたいと思います。

充実の日々／卒業そして社会へ

卒業にあたって強く印象に残っているのは卒業論文と就職活動だ。私たちの就職活動はリーマンブラザーズの経営破綻を合図に始まった。

百年ぶりの経済危機という新聞の見出しが飛び交う中での就職活動は、どうも浮き足立ちだったように思える。しかしこの経験は有意義なものになったと思う。通常とは違う緊迫した中で行動するというのは今後就職してから何度もある。そこで今回の経験が生かせると思うからだ。

卒業研究と就職活動の時間は誰にでも平等であるが、その中で自分が何をすべきかを考え効率よく動かなければ自分が望んでいる結果は得られないと分かった。

しかしこの結果を出すのは自分の力だけでは無理であつたと思う。卒業研究では教授にご助力いただいたが、就職活動では助けがなくなったときに友人たちに励まされ助けられた。このような恵まれた環境であつたのは幸運であるが、今後は結果を自分の力で出さなければいけない。勝つて兜の緒を締めよ、気を引き締めて卒業していきたい。

厳しい就活も有意義な経験

システム学科 青柳 清佳

私は大学生活を悔いの残らないものにしたいたいと思いが4年間過ぎてきました。その結果、講義の面ではカナダ留学を経験して未知の環境における自分の学習能力を試しました。また、課外活動の面では、ダンス部に入学して積極的に活動し、県外にも遠征に行つて人前に出ながらも実力を出すことを学びました。

その他にも力を入れたこととして、小・中学校、高校に国際関連の授業をしに行く国際交流インストラクターを2年間やりました。主観的な考え方だけでなく他者の視点から見客観的な考え方もできるようになりました。私はこれらのすべてを生かしてこの春に営業マンとして就職します。

今、こうやって4年間を振り返ってみると、たくさんの方を経験できて幸せな4年間だったことを感じます。友人にも恵まれ、恩師にも恵まれた悔いのない素晴らしい4年間でした！

国情でこれからは大学生活を送る後輩たちも悔いのない大学生活ができることを願っています。ありがとうございます。

授業も課外活動でも悔いなく

システム学科 渡邊 貴人

4年間では去り難い楽しさ

システム学科 山崎 行太

「出る杭は打たれるが、出過ぎる杭は打たれない」いつ知った言葉かは忘れましたが、私の大学生活はこの言葉がよく当てはまります。サークル長、ゼミ長、オープンキャンパスのアシスタント、キャリア開発などでの体験報告などなど、本当にいろいろなことをやり、また周りの協力で作らせていただきました。

私は日々生活の中で起こることやできることに積極的に首を突っ込み、全力で楽しむようにしています。会う人話すこと、行うことすべてが良い経験となり、この4年間毎日楽しくてしょうがありませんでした。頼まれ事もなるべく引き受けるようにしていたら、最後には、このメッセージも載せていただけると

ともなりました。こうした経験すべてが私の力になり、糧になりました。春からの営業マンとしての仕事でも、今までの経験が大いに役立ってくれるでしょう。最後に、私と会話をし、一緒に何かに取り組み、たくさん笑い合ってくれた皆さん、本当にありがとうございます。かなり短かったと振り返っている大学生活は、忘れたくても忘れられないでしょう。去りがたい4年間に感謝しています。

学長告辞

新潟国際情報大学長
平山 征夫厳しい経済状況下でも
いつまでも青春の気概を

本日、めでたく卒業式を迎えられた皆さんに「卒業、おめでとう」と心からのお祝いを申し上げます。

また、ここに多数のご来賓の方々、ご父母の皆様にもご臨席賜りましたことに深く感謝申し上げます。ご父母の皆さまにおかれましては、本日大きな喜びとともに卒業の日を迎えられたこととご推察申し上げます。皆さまに對しまして新潟国際情報大学の役員、教職員一同を代表いたしまして祝福と御礼を申し上げます。

大きな希望に胸膨らませて本学に入学して速いもので4年が過ぎました。みずき野での学生生活ではさぞかしいろいろなことがあったことと思います。本日卒業式に臨み、今皆さんの胸には思い出が次々と去来していることでしょう。本学でのそうした思い出は、一生青春の思い出として忘れられないものになることと思いますが、同時に大学時代の勉学、クラブ活動、友達との友情などの思い出が、自身を成長させてくれたものでもあることにいづれ気付くでしょう。大学時代の経験は木の根のように、それが礎となって皆さんを将来大きく成長させてくれるでしょう。

この春、みずき野を巣立ってゆく情報文化学科101名、情報システム学科157名、合わせて258名の卒業生諸君には、近年にない経済情勢のもとで、かつての「就職氷河期」を上回る厳しい状況下での卒業となりました。これまでですと

「卒業式にあたり多くの前途有為な若者を地域社会に送り出せることを大学としても大きな喜びとするところですよ」と挨拶申し上げるところですが、本年は正直そう申し上げにくいことを誠に残念に思っております。厳しい就職状況を考慮して大学としても昨春秋には県外への就職活動の旅費を負担するなどの対応策を講じましたが、残念ながら厳しい結果となりました。

そうした状況下での卒業となりましたが、社会へ巣立つ門出にあたり、学長として皆さんに、はなむけの言葉を贈りたいと思います。それは65歳を過ぎた私自身が大切にしていることでもありますが、「いつまでも青春の気概を持っていてほしい」ということです。新潟市出身の新井満さんの「青春」という本に出ている米国の社会貢献活動家、サムエル・ウルマンの「青春とは」という詩を紹介します。

青春とは 眞の青春とは
若き肉体のなかにあるのではなく

理事長祝辞

学校法人 新潟平成学院理事長
武藤 輝一頼もしい成長ぶり
さらに知識・技能を高めよう

新潟国際情報大学第13回卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

早いものです。皆さんの入学式の日からもう4年の月日がたちました。皆さんの入学時に比べ、本日の社会人らしい面持ちを拝見し、たいへん頼もしく思っています。

若き精神のなかにこそある 薔薇色の頬
真つ赤な唇 しなやかな身体
そういうものは大した問題ではない

問題にすべきは 強い意思 ゆたかな想像力
もえあがる情熱
そういうものがあるかないか

こんこんと湧き出る 泉のように
あなたの精神は 今日も新鮮だろうか
いきいきしているだろうか

臆病な精神のなかに青春はない
大いなる愛のために発揮される
勇氣と冒険心のなかにこそ 青春はある

臆病な二十歳がいる 既にして 老人
勇氣ある六十歳がいる 青春のまつただなか
年を重ねただけで人は老いない

夢をうしなつたとき はじめて老いる
歳月は皮膚にしわを刻むが 情熱を失つたとき
精神はしわだらけになる

〔新井満訳、以下省略〕

私はいつもこの詩を傍に置き、「夢を失っていないか」と自分に問いかけています。学長という役割を担っていますから、今現在の私の夢は、こ

本学入学の際に申し上げましたように、何事においても周囲の状況を冷静に判断し、自ら考え、自ら発言し行動するという心構えができたことと存じます。

このしっかりとした心構えがあれば、今後、時として遭遇することがあるかもしれない精神的あるいは肉体的荒波を、十分に乗り切ることができるでしょう。そして、これからは、日常の生活の中で、自らの職業にも関連しつつ、見聞を広め、少しずつでも自らの知識や技能を高める努力を忘れないでください。

皆さんのこれからの人生の途中で、ある時ふと立ち止まって、過ぎし日を振り返ることがあるでしょう。そのとき、強く悔いすることなく、ああ良かったとか、まあまあであったと思える人生を送りたいものです。皆さんの平素の心掛け次第で心豊かな満足できる人生を送ることができるものと信じております。

あらためて、皆さんのご卒業を心からお祝い申し上げますとともに、前途に幸多かれと祈り、皆さんを送る言葉といたします。

の大学を少しでも良くし、将来の地域を担う人材を育てていきたいということです。夢を持って生涯生きてゆくことの大切さだけでなく、その夢を実現してゆくにはどうしたら良いか、実現力を持った人間に育ててゆくことが少しでもできればということをお夢として抱いています。

この詩は老いてゆく人たちにたくさんの励ましを与えてきました。しかし、あえて私はこの詩を若い皆さんに贈ります。皆さんの大半は22、23歳ですから間違いなく肉体は若いでしょう。でも精神はどうですか。勇氣と冒険心を持っていますか、臆病になつていませんか、大きな夢を持っていますか。大切なことは精神が真に若いことです。

そしてさらに大切なことは夢を少しでも実現するにはどうしたらよいからです。私は一番大切なことは多くの人から信頼される人間になることだと思っております。信頼される人間になると、多くの人が集まり、いろいろな人たちの力の結集で夢が自然に実現するからです。では信頼される人間になるにはどうしたらよいでしょう。もちろん誠実で他人のことを思いやり、自分勝手でない愛情深い人間になろうとすることが大切です。

今の経済低迷の原因であるサブプライムローンによるバブルの崩壊は、それとは逆の利益追求型の「利己心」を持って行動することに価値を置いた社会でした。それはより速い経済成長をもたらしませんが、所得格差が大きいなど多くの人を幸せにするための仕組みでは必ずしもありませんでした。その仕組みが行き詰まり崩壊した現在、私たちは皆が幸せになれる社会の仕組みをつくり直す必要はありません。そうした社会の来ることを私は願ひ、またそうした社会に相応しい「他人をいたわることのできる優しい気持ちを持った人間」に皆さんになつてほしいと願っています。それが信頼される人間になるベースだからです。

しかし、それだけではまだ十分ではありません。自分の考えで行動する自立した人間でなくてはなりません。その考え、行動が人から評価されて初めて信頼されるからです。その場合に必要なのは深い思考力、行動力は、大学で学んだ幅広い教養と専門分野での深い知識がベースになります。それを磨いてさらに高めてゆくためには、本学で学んだことを社会に出てからも、いっそう磨いてゆく必要があります。人生、一生学ばなければなら

ないのです。そうした積み重ねが正しい、人に信頼される思考、判断、行動をつくり上げてくれると思います。本日は大学卒業の日ですが、これからの長い人生勉強の入学の日でもあります。これが65年間の人生を送ってきた私の結論です。

社会で活動してゆくには、仕事をはじめ社会人としての行動に自己責任を負わなければなりませんし、そのためには自分で考え、判断し、それを説明し理解を得なければなりません。それは必ずしも容易なことではありません。しかも皆さんの生きてゆく時代は豊かになりましたが、必ずしも生きやすい、幸せにはなりやすい社会ではありません。

人間として本当に大切なことを守って行くためにも、今のストレスの強い競争型の社会に押しつぶされないためにも、逞しさと賢さの両方が必要です。それを支えるのは考える力に基づく問題解決力であり、強い信念に基づく精神力であり、夢を追い求める若々しい心です。こうした精神が相乗効果となって皆さんの人生を豊かなものにしてくれるでしょう。皆さんの「青春号」の船出にあたり「勇気と冒険心の中にこそ青春がある」こと

卒業生答辞



情報文化学科 (総代)

達田 麻誠

己にしかできない役割

思う存分に発揮したい

本日は、平山学長をはじめ、諸先生方、来賓の方々のご臨席を賜り、このような盛大な卒業式を迎えることができ、卒業生一同、心より感謝いたしております。本日、私を含め、258名が卒業することとなりました。私たちを卒業まで見守ってくださったすべての方々に、卒業生を代表して厚く御礼申し上げます。

を胸に、人生に前向きにチャレンジしていつくださるよう祈念申し上げます。

最後にもう一つ、卒業後も本学に愛情と誇りを持つてほしいということをお願いしたいと思います。私たちも皆さんがいつまでも愛情と誇りの持つてくるような大学であるよう努めます。例年になく雪の多かったみずき野にもこうして春が訪れまし。春は別れの時でもあり、本日をもって皆さんとはいったんお別れですが、これから卒業生として新たなお付き合いをしてゆくわけで、そのことを楽しみにしています。

もう少しするとキャンパスに皆さんの後輩を迎えます。こうしてバトンタッチしながら、人々はずながり生きてゆくわけです。親から子へ、先輩から後輩へ、先生から生徒へ、いろいろなつながり、バトンタッチがこの地域を豊かにすることを願っています。社会人としてだけでなく、地域人としても貢献されんことを期待しています。

皆さんのご卒業を心よりお祝い申し上げますとともに、前途幸多きことを切に願ひながら、私の皆さんの門出に当たつての送別とお祝いの言葉といたします。

今、私たちの胸には学生生活におけるさまざまな思い出や感情が溢れています。一人ひとりがそれぞれ思いを抱き、新潟国際情報大学に入学しました。初めて会う人、幅広い講義内容に対し、戸惑いや不安を抱えて始まった学生生活でしたが、今振り返ると、本当にあつたという間の4年間でした。これまでとは異なり、受け身ではなく、自ら考え学ぶ姿勢が求められ、新たに自分を成長させることができました。それと同時に、講義やゼミなどのいろいろな場面で仲間と出会い、充実した学生生活を送ることができました。

私たちのこれまでの人生と世界の歴史を照らし合わせてみると、ベルリンの壁が崩壊し、米ソ冷戦の終結した世界と共に歳を重ねてきたことになりました。その中でも大学での4年間は、国内外で大きな変動がありました。国内では4度にわたる政権交代、アメリカではオバマ政権が誕生しました。アジアに眼を向けると、中国が著しい成長を遂げてきました。北京オリンピックも開催され、GDPは近く日本を超えて世界第2位の地位を占めるにいたると予想されています。

胸を痛める事柄も数多く起きました。今もお、イラク、アフガンでは戦火が止む気配はなく、ミャンマーのサイクロンや四川大地震があり、つい先日、ハイチ、チリが大規模な地震に見舞われました。また、インフルエンザなどの伝染病も世界に広がりました。それに加え、世界は気候変動の問題もますます深刻化しており、迅速な国際援助へ向けた日本の国際貢献のあり方が問われ続けています。

このような時代背景、世界的な課題が存在し続ける中、新潟国際情報大学で学んだことには、大きな意味がありました。欧米やアジアなどさまざまな国や地域について学ぶ環境が整っているため、過去、現在、また先進国、途上国と、あらゆる面から理解を深め、世界の繋がりを実感することができました。また、ゼミや卒業論文などを通じて、自分の思考を整理する力、物事をあらゆる角度から捉え、本質を見極める力、そして、伝えたいことを相手の立場に立つて表現していく術を身に付けることができました。

4月から私たちは、自ら選んだ、別々の道歩んでいきます。大学で得たことの中には、まだ自分には見えていないものもあると思います。しかしそれは、今後は、新たな生活で待ち受けているであろう困惑しつらく苦しい壁にぶつかったとき、まさにそのときこそ、道標として現れてくるはずです。私たちはなんといいても、新潟国際情報大学によって繋がっています。そのことが自信と勇氣になり、背中を押してくれるはずです。将来において、自分自身に求められること、自分しか果たすことのできない役割が必ずあります。状況を悲観することなく、これまでに新潟国際情報大学で育み、形成してきた自分自身の力を、思う存分に発揮していきたいと思ひます。そうして、私たちがこの大学で学び、得たものは、自分自身のためだけでなく、社会への貢献にも役立てていくことができるに違いありません。

最後になりましたが、私たちがこれまでご指導してくださった平山学長をはじめとする諸先生方、職員の方々、そして、今日まで温かく見守り、支え続けてくれた家族や友人たちへ、心から感謝致します。本日ご臨席の皆さまのご健康、後輩の皆さまのご活躍、並びに、新潟国際情報大学のより一層の発展を願ひ、答辞とさせていただきます。

祝電

新潟県知事

新潟市長

新潟商工会議所会頭

日本私立大学協会会長

株式会社総研システムズ

代表取締役社長

株式会社新潟三越店 店長

株式会社文武堂 代表取締役

株式会社ホテル清風宛

代表取締役

新潟中央青果株式会社

株式会社富山第一銀行

取締役頭取

株式会社星光堂薬局

代表取締役社長

新潟総合警備保障株式会社

代表取締役社長

泉田 裕彦

篠田 昭

敦井 榮一

大沼 淳

相原 貞則

藤川 敏

小島 和夫

樋口 恵一

小出 佐治

金岡 純二

近藤 雄治

廣田 幹人

13人に修了証書

平成21年度の日本技術者教育認定機構(JABEE)情報システム技術プログラムの修了証書授与式が22日、卒業式に先立って同会場のりゅうとびあコンサートホールで行われました。

情報システム技術プログラムを無事修了したのは13人で、学長から修了証書が授与されました。



このプログラムはJABEEが認定する教育制度で、修了生は国家資格である「技術士」の技術士第一次試験合格者と同等に扱われ、第一次試験免除の特典が与えられます。また、所定の登録を行うことによって「技術士補」の資格を取得することができます。

本学では一昨年度から情報システム学科卒の48人が既に修了証書を取得しています。

勇気と冒険心を失わず いつまでもチャレンジを

平成21年度（第13回）卒業式が3月22日、新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）コンサートホールで行われ、258人（情報文化学科101人、情報システム学科157人）の卒業生が大きな希望を胸いっぱいに社会へ船出しました。

学位記授与で、卒業生一人ひとりが晴れがましく名前を呼ばれ、学位記と記念品が平山征夫学長から両学科代表に贈られました。平山学長は告辞で「本学で学んだ幅広い教養と専門分野での深い知識をさらに磨き、厳しい就職状況下ではあったが、いつまでも青春の気概と大きな夢を持ってほしい。青春号の船出にあたり、勇気と冒険心の中にもこそ青春があることを胸に、人生に前向きにチャレンジしてってください」と前途を祝福しました。

これに対し、卒業生を代表して情報文化学科の達田麻誠さんが「自ら考え学び自分を成長させることができた。自信と勇気を持って社会に貢献し役立ちたいと思います」と力強く答辞を述べました。

式典は最後に校歌「空がある風がある光がある」で締めくくり、吹奏楽部の演奏で卒業生と、壇上では合唱部に平山学長ら教職員も加わって合唱し、会場の父母も一緒になって温かい大きな拍手に包まれました。

恒例の祝賀会は同日夕、ANAクラウンホテル新潟で開催されました。晴れの装いで教職員を囲み握手と乾杯をしながら、笑顔でそれぞれの門出を祝い、厳しい就職戦線を戦い続ける同僚を激励し、お互いに将来の活躍を誓い合いました。



平成21年度卒業式



258人が巣立つ

第13回までの卒業生は合計3,799人に

年 度	卒業者数	情報文化 学科	情報システム 学科
平成9年度(第 1回)	295人	116人	179人
10年度(第 2回)	290人	124人	166人
11年度(第 3回)	303人	126人	177人
12年度(第 4回)	294人	114人	180人
13年度(第 5回)	291人	118人	173人
14年度(第 6回)	277人	111人	166人
15年度(第 7回)	314人	118人	196人
16年度(第 8回)	294人	115人	179人
17年度(第 9回)	299人	121人	178人
18年度(第10回)	278人	110人	168人
19年度(第11回)	312人	126人	186人
20年度(第12回)	285人	117人	168人
21年度(第13回)	267人	105人	162人
合 計	3,799人	1,521人	2,278人

※9月卒業生含む

平成21年度 卒業生特別表彰

学長賞（学業成績優秀者）

情報文化学科（総代） 達田 麻誠

情報システム学科 阿部 慎

学術賞

情報文化学科 鴨井 勇太

ロシア語スピーチコンテストにおいて、最も難易度の高い「チャレンジの部」にて優勝した。またロシア語能力検定試験2級（本学の資格取得奨励奨学金の基準第1種に該当）に合格した。

地域交流賞

情報システム学科 岩崎 哲也

赤塚の農家から依頼されホームページを作成し、インターネット通販に出店し、その後も注文処理、ギフト企画、メールマガジンの配信に携わるなど、地域の交流に顕著な功績を挙げた。

国際交流賞

情報システム学科 片岡 憲一（代表）

情報文化学科 大野 結花

情報文化学科 白井 啓介

本学での授業・課外活動を通じて国際社会に関する知識を習得し、ラオスにおける学校建設のためのボランティア活動を企画・立案し実行するなど、国際交流活動に積極的に参加して、本学が目指す国際交流の活性化に貢献した。